

子どもにとっての時間 —カンボジアの子どもたちの生活意識調査から—

前田 志津子 (活水女子大学)

カンボジアと聞くと、みなさんはどんなイメージをもつのでしょうか。

カンボジアの義務教育は、日本と同じく小学校6年間、中学校3年間の計9年間となっています。子どもたちが義務教育を無償で受ける権利は、カンボジア王国憲法で保障されています。しかし、現実には入学しても家が貧しく、手伝いをしなければならなかったり、親が教育の大切さをあまり理解していないため留年したり、中途退学する子どもも少なくないようです。

カンボジアの小・中学校は、首都プノンペン市内の生活や時間に余裕のある家庭の子どもを対象とする私立学校を除き、午前(7時~11時)と午後(1時~5時)の2部制がとられています。その背景には、教師の数が少ないこと、教室の不足があること。この問題は地方では特に深刻です。学校には、教材・教具など設備らしいものはありません。音楽、美術といった教科もありません。もちろん給食はありません。このようななかで在って、学校でみる子どもたちの表情は、概して明るく意欲的です。その理由として考えられることは、知識が広がっていく過程が保障されている。学校に行くことによって家族という限られた人間関係、家族のなかでの手伝い、労働から解放されることではないでしょうか。子どもたちにとっての時間は、学校での時間、もうひとつは、家庭での生産労働の時間であるならば、学校で過ごす貴重な時間は、楽しいということにつながっていると思います。

子どもたちがどのような環境のなかで生きているかを知らない子どもを理解することはできませんそのために生活意識調査を試みました。調査の内容は、生活リズムについて、手伝いについて、なりたい職業について、学校に対する思い、先生・親に対する尊敬について、幸せ観、自尊感情についてです。そして、「神さまが三つだけ願いをかなえてくださる。」と言われたら何をお願いするかを質問項目に加えました。

「神さまへの三つのお願い」について、カンボジアの子どもたちの願いと、日本(長崎市)の小学生の願いから、時間と経済とのつながりがみえてくるのです。



プロフィール

福岡教育大学大学院修了。福岡教育大学附属幼稚園教諭を経て現在活水女子大学特別専任教授。専門は保育学。
2008年よりカンボジアのプノンペン郊外の小学校での読書教育等の支援活動、その傍ら「カンボジアの子どもたちの生活意識」-村の小学校と都会の小学校の比較、を行ってきている。
また、2017年からベトナムホーチミン市教育大学での講義、さらには、同大学卒業生の就職先幼稚園での研修等携わってきている。